

## 2013年3月

1  $\alpha$  を 0 でない実数とし, 0 でない実数からなる数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  が

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\sin a_n}{a_n} = \alpha$$

をみたすとする.

- (1) 数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  は有界であることを示せ.
- (2)  $\alpha = 1$  のとき, 数列  $\{a_n\}_{n=1}^{\infty}$  は収束することを示し,  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$  を求めよ.

2

- (1) 正定数  $c$  に対して, 関数  $f_c: (-\pi, \pi) \rightarrow \left(-\frac{\pi}{2}, \frac{\pi}{2}\right)$  を

$$f_c(x) = \arctan(c \tan \frac{x}{2})$$

により定める. このとき, 導関数  $f'_c(x)$  を  $\cos x$  により表せ.

- (2) 定数  $\alpha > 1$  に対して, 次の等式を証明せよ.

$$\int_0^{\pi} \frac{dx}{\alpha + \cos x} = \frac{\pi}{\sqrt{\alpha^2 - 1}}.$$

- (3) 定数  $\alpha > 1$  に対して, 次の積分値を求めよ.

$$\int_0^{\pi} \frac{dx}{(\alpha + \cos x)^2}.$$

3  $M_4(\mathbb{R})$  を 4 次実正方行列全体のなすベクトル空間とする.

- (1)  $a, b$  を実数とするとき, 行列

$$A = \begin{pmatrix} a & 0 & 0 & b \\ 0 & a & b & 0 \\ 0 & b & a & 0 \\ b & 0 & 0 & a \end{pmatrix}$$

の行列式  $|A|$  を求めよ.

(2)  $M_4(\mathbb{R})$  の部分集合

$$W = \left\{ A = \begin{pmatrix} a & 0 & 0 & b \\ 0 & a & b & 0 \\ 0 & b & a & 0 \\ b & 0 & 0 & a \end{pmatrix} \mid a, b \in \mathbb{R}, |A| = 0 \right\}$$

が  $M_4(\mathbb{R})$  の部分ベクトル空間であるかどうかを、理由と共に答えよ.

(3) 次の2つの4次正方行列が  $\mathbb{R}$  上一次独立であることを示せ.

$$B_1 = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad B_2 = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & -1 & 0 \\ 0 & -1 & 1 & 0 \\ -1 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}.$$

(4) 前問で与えられた行列  $B_1, B_2$  で張られる  $M_4(\mathbb{R})$  の部分ベクトル空間に属する任意の行列  $B$  について、 $|B| \geq 0$  であることを示せ.

4  $n$ 次元実ベクトル空間  $\mathbb{R}^n$  における通常の内積を  $\mathbf{u} \cdot \mathbf{v}$  で表すとし、 $\{\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \dots, \mathbf{e}_n\}$  を  $\mathbb{R}^n$  の正規直交基底とする.  $\mathbf{f} = \sum_{i=1}^n \mathbf{e}_i$  とし、

$$W = \{\mathbf{v} \in \mathbb{R}^n \mid \mathbf{v} \cdot \mathbf{f} = 0\}$$

とする. さらに、 $\mathbb{R}^n$  の  $\mathbf{0}$  でないベクトル  $\mathbf{a}$  に対して、写像  $r_{\mathbf{a}}: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^n$  を

$$r_{\mathbf{a}}(\mathbf{x}) = \mathbf{x} - 2 \frac{\mathbf{a} \cdot \mathbf{x}}{\mathbf{a} \cdot \mathbf{a}} \mathbf{a}$$

で定義する.

(1)  $W$  が  $\mathbb{R}^n$  の部分ベクトル空間であることを証明せよ.

(2)  $r_{\mathbf{a}}$  が線形写像であることを証明せよ.

(3)  $\{\mathbf{e}_1 - \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_2 - \mathbf{e}_3, \dots, \mathbf{e}_{n-1} - \mathbf{e}_n\}$  が  $W$  の基底となることを証明せよ.

(4)  $W$  に属する  $\mathbf{0}$  でないベクトル  $\mathbf{a}$  に対して、 $r_{\mathbf{a}}(W) = W$  を証明せよ.

(5)  $n = 4$  の場合に、 $W$  の基底  $\{\mathbf{e}_1 - \mathbf{e}_2, \mathbf{e}_2 - \mathbf{e}_3, \mathbf{e}_3 - \mathbf{e}_4\}$  に関する  $r_{\mathbf{e}_2 - \mathbf{e}_3}$  の表現行列を求めよ.

5

$n$  を正の整数とし,  $F = \{0, 1\}$  とする. 写像  $d: F^n \times F^n \rightarrow \mathbb{Z}$  を

$$d(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = \left| \{i \mid 1 \leq i \leq n, u_i \neq v_i\} \right|$$

で定義する. ここで,  $\mathbf{u} = (u_1, u_2, \dots, u_n) \in F^n$ ,  $\mathbf{v} = (v_1, v_2, \dots, v_n) \in F^n$  であり,  $|S|$  は有限集合  $S$  の要素の個数を表す. さらに,  $0 \leq k \leq n$  をみたす整数  $k$  と  $\mathbf{u} \in F^n$  に対して

$$N_k(\mathbf{u}) = \{\mathbf{v} \in F^n \mid d(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = k\}$$

とおく.

- (1)  $k$  は  $1 \leq k \leq n$  をみたす整数とし,  $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in F^n$  は  $d(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = k$  をみたすとするとき,  $|N_{k-1}(\mathbf{u}) \cap N_1(\mathbf{v})|$  を求めよ.
- (2)  $i, j$  は  $0 \leq i \leq n, 0 \leq j \leq n$  をみたす整数とし,  $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in F^n$  とする.  $d(\mathbf{u}, \mathbf{v}) = k$  とするとき,  $|N_i(\mathbf{u}) \cap N_j(\mathbf{v})|$  を求めよ.
- (3)  $i, j$  は  $0 \leq i < j \leq n$  をみたす整数とし,  $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in F^n$  とする. 任意の  $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in N_i(\mathbf{u}) \cap N_j(\mathbf{v})$  に対して  $d(\mathbf{x}, \mathbf{y}) < 2j$  が成り立つことを示せ.

6

2つの確率変数  $X, Y$  の共分散は

$$\mathbf{Cov}(X, Y) = \mathbf{E}[(X - \mathbf{E}[X])(Y - \mathbf{E}[Y])]$$

で定義される. ただし,  $\mathbf{E}[Z]$  は確率変数  $Z$  の平均値を表す. 以下の問いに答えよ.

- (1) 確率変数  $X, Y$  が独立であるとき,  $\mathbf{Cov}(X, Y) = 0$  となることを示せ.
- (2) 確率変数  $X, Y$  のとる値が 0 または 1 に限られているとする. このとき,  $\mathbf{Cov}(X, Y) = 0$  であれば,  $X, Y$  は独立であることを示せ.
- (3) 確率変数  $X, Y$  のとる値が  $-1, 0$  または 1 に限られているとし,  $\mathbf{E}[X] = \mathbf{E}[Y] = \mathbf{Cov}(X, Y) = 0$  とする. このとき,  $X, Y$  は独立であるかどうかを理由と共に答えよ.

7  $\gamma(t)$  を  $\mathbb{R}$  上の実数値連続関数とする. 微分方程式

$$\frac{d^2x}{dt^2} + \gamma(t)x = 0$$

の解  $x = x(t)$  について以下の問いに答えよ.

- (1)  $\gamma(t)$  が非正値の定数関数のとき, 条件  $x(0) = x(1) = 0$  を満たす解  $x(t)$  は恒等的に 0 であることを示せ.
- (2)  $\gamma(t)$  が正値の定数関数のとき, 条件  $x(0) = x(1) = 0$  を満たす恒等的に 0 でない解  $x(t)$  を求めよ.
- (3)  $\gamma(t)$  が正値関数のとき, 条件  $x(t+1) = 4x(t)$  を満たす解  $x(t)$  は  $[0, 1]$  において少なくとも 1 点で 0 になることを示せ.

8 複素平面上の有理型関数

$$f(z) = \frac{z}{(z^2 + 4)(z^2 - 2z + 10)}$$

について以下の問いに答えよ.

- (1)  $f(z)$  のすべての極とその点における留数を求めよ.
- (2) 正数  $R$  に対し,  $C_R$  を半円周  $z = Re^{i\theta}$ ,  $0 \leq \theta \leq \pi$  とする. 複素積分

$$I_R = \int_{C_R} f(z) dz$$

は,  $R \rightarrow +\infty$  のとき, 0 に収束することを示せ.

- (3) 定積分

$$\int_{-\infty}^{\infty} \frac{x}{(x^2 + 4)(x^2 - 2x + 10)} dx$$

の値を求めよ.

9  $a, b, c, d$  を実数とし,  $a < b, c < d$  とする.

- (1) 开区間  $(a, b)$  と  $\mathbb{R}$  は同相であることを示せ.

(2) 閉区間  $[a, b]$  と  $\mathbb{R}$  は同相でないことを示せ.

(3) 开区間  $(a, b)$  と区間  $[c, d) = \{x \in \mathbb{R} \mid c \leq x < d\}$  は同相でないことを示せ.

10  $G$  を有限群,  $A$  を  $G$  の正規部分群,  $z$  を  $G$  の位数 2 の元とし, 次を満たすとする.

$$C_G(z) \cap A = \{e\}.$$

ただし,  $e$  は  $G$  の単位元であり,  $C_G(z) = \{g \in G \mid gz = zg\}$  である.

(1)  $A$  の位数  $|A|$  が奇数であることを証明せよ.

(2)  $\{x^z x^{-1} \mid x \in A\} = A$  を証明せよ. ただし,  $x^z = z^{-1} x z$  とする.

(3)  $A$  がアーベル群であることを証明せよ.